

フランス・ヴァルドワーズ県代表団との意見交換会およびセミナーが行われました

2016年10月24日

10月24日（月）、フランス・ヴァルドワーズ県代表団が本学を訪れ、関係者との意見交換会及び一般公開セミナーが開催されました。



フランスのヴァルドワーズ県は、人口約120万人、フランスの玄関口であるシャルル・ド・ゴール空港を擁する、ヨーロッパでも特に経済的魅力に溢れる地域です。コスメティック構想を推進する中核組織であるジャパン・コスメティックセンターとヴァルドワーズ県との交流の経緯から、今回、産業協力、人材交流を目的に代表団が佐賀県を訪問することとなりました。

この日の午前、ヴァルドワーズ県の第一副議長で経済振興委員会の会長を務めるフィリップ・スール氏をはじめ、大学関係者、産業界関係者など24名が来学し、本学の宮崎耕治学長、滝澤登理事（教育・学生担当）、門出政則理事（研究・社会貢献担当）、渡邊啓一農学部学長、他関係者との意見交換会を行いました。



意見交換会は終始和やかな雰囲気で行われました。学長からは、本学の概要や特徴的な取り組みについて紹介があり、代表団からは、バイオ産業大学のフローレンス・デュフル学長、国際科学通信情報高等専門大学のエマニュエル・ユベール学長補佐、セルジー・ポントワーズ大学のハン・ザ・ディエップ副学長、電子応用学高等専門学校のアントワン・トヴェル学長補佐からそれぞれの大学紹介が行われました。また、大学院工学系研究科の奥村教授から、知能情報システム学専攻の紹介もなされました。意見交換では、学生交流も含めた交流の開始に向けて、前向きな意見が出されました。

午後にはヴァルドワーズ県が注力する産業や取り組みなどを紹介し、県内企業と地域イノベーションの種を生み出す海外交流を展開させることを目的とした「フランス・ヴァルドワーズ県セミナー in 佐賀大学」が開催されました。



セミナーでは、フィリップ・スール氏、フローレンス・デュフル氏、ジャン-リュック・アンセル氏の 3 名から、「グランパリ圏におけるヨーロッパ経済活性の重要地域の紹介」、「コスメティック分野における産業交流・新規事業立ち上げの最適地域」、「コスメティックヴァレーを有する卓越した地域：香水分野での最初のグローバルなリソースセンター」と題して、フランスでのヴァルドワーズ県の位置付けや概要、特に力を入れている航空宇宙産業や化粧品産業について、最新の情報が提供されました。

セミナー後の名刺交換・交流会では、本学のオリジナルブランド日本酒「悠々知酔」が振舞われ、代表団との更なる交流を深めました。